

串間市文化財調査報告書第19集

市内遺跡発掘調査報告書

1999

宮崎県串間市教育委員会

序

串間市内には各時代各種類の遺跡・埋蔵文化財が数多く点在しています。串間市教育委員会ではこれらの文化財を先人の残してくれた貴重な遺産と捉え、その保護・活用に努めているところですが、近年の開発事業・造成工事等が埋蔵文化財に与える影響は大きく、文化財の保護と開発行為等との調整が大きな課題となっています。このような状況の中当教育委員会では開発行為等が市内に点在する埋蔵文化財に影響を与えることが危惧される場合には事前の試掘調査を実施し、埋蔵文化財の有無・範囲・性格等についての報告書を作成して協議・調整のための資料としています。

本年度は大字本城所在の上篠原遺跡他において試掘調査を実施し、当報告書を刊行することとなりました。当報告書が文化財保護への理解に役立つとともに、社会教育・学校教育等の場において広く活用されれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査を実施するにあたってご協力いただきました関係諸機関並びに市民の皆様に対して、心より感謝申し上げます。

串間市教育委員会

教育長 岩下斌彦

例　言

1. 本書は、宮崎県串間市教育委員会が国県の補助を得て平成10年度に実施した市内遺跡発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は、市内に所在する遺跡及び埋蔵文化財が所在すると目される地点のうち、大字本城字上篠原所在の上篠原遺跡ほか3地点について試掘調査を実施した。
3. 発掘調査は、串間市教育委員会が主体となり、同主事宮田浩二が担当した。
4. 調査組織は以下のとおりである。

調査主体 串間市教育委員会

教　育　長 岩 下 篤 彦

生涯学習課長 山 田 隆 夫 (総括)

生涯学習課長補佐 永 田 栄 子

文化振興係長 川 上 哲 二 (調整・庶務担当)

主　　事　　宮 田 浩 二 (調査・執筆・編集担当)

調　　査　　指　　導　　宮崎県教育委員会文化課

5. 遺跡・調査地点の名称は小字名による

6. 出土した遺物は串間市教育委員会で保管している。

本文目次

第I章 上篠原遺跡の調査	
第1節 遺跡の位置と環境	1
第2節 調査に至る経緯	1
第3節 調査の内容	1
第4節 小結	1
第II章 宮園地点の調査	
第1節 調査地点の位置と環境	3
第2節 調査に至る経緯	3
第3節 調査の内容	3
第4節 小結	3
第III章 桜木地点の調査	
第1節 調査地点の位置と環境	5
第2節 調査に至る経緯	5
第3節 調査の内容	5
第4節 小結	5
第IV章 金谷遺跡の調査	
第1節 遺跡の位置と環境	7
第2節 調査に至る経緯	7
第3節 調査の内容	7
第4節 小結	7
報告書抄録	13~14

挿図目次

第1図 上篠原遺跡位置図	2
第2図 上篠原遺跡概要図	2
第3図 宮園地点位置図	4
第4図 宮園地点概要図	4
第5図 桜木地点位置図	6
第6図 桜木地点概要図	6
第7図 金谷遺跡位置図	8
第8図 金谷遺跡概要図	8

図版目次

図版1 上篠原遺跡トレンチ状況写真	9
図版2 宮園地点トレンチ状況写真	10
図版3 桜木地点トレンチ状況写真	11
図版4 金谷遺跡トレンチ状況写真	12

第Ⅰ章 上篠原遺跡の調査

第1節 遺跡の位置と環境

上篠原遺跡は串間市大字本城字上篠原に所在する。当地は串間市役所から南東に車で20分ほどの大字本城下中園集落背後のシラス台地（標高約25m）で、本城川の支流である中園川と黒仁田川の合流地点にほど近い環境にある。

調査地点は台地上の東側縁辺部の畑地であるが、同台地はほぼ同じ標高での広大な面積を有し、いたるところに縄文時代から近世にかけての遺物が散布する。また、中園川を挟んだ東対岸の上中園地区には縄文時代後期の遺物を包蔵する上中園遺跡や道場遺跡、黒仁田川を挟んだ南東対岸には弥生時代から古墳時代にかけての別府原遺跡が所在する。

第2節 調査に至る経緯

平成10年度当初、本城地区に携帯電話無線基地局（鉄塔）を開設したいとの旨で、その候補地の数地点について串間市教育委員会に業者より文化財有無の照会があった。これにより当教育委員会で踏査を行った結果、上篠原遺跡については確認調査の必要があることを回答。その後、業者より同地点を開設予定地としたいとの連絡があり、協議した結果、確認調査を実施することになった。確認調査は平成10年9月1日から9月3日にかけて実施した。

第3節 調査の内容

試掘調査は、対象地である565m²の畑地に計7本のトレンチ（3m×1m標準）を設定して実施した。上篠原遺跡での基本層序は次のとおりで、以下に各トレンチの状況を記す。

I層；表土 II層；ボラ混入黒色土 III層；アカホヤ火山灰 IV層；黒褐色土
V層；暗褐色土 VI層；薩摩火山灰 VII層；暗褐色土 VIII層；褐色土

1号トレンチ；約20cmの表土の下層はアカホヤで、この中間層は消滅しており、開墾の際に削平されたものと思われる。アカホヤ以下の旧地形はほぼフラットで土層は良好に残存するが、VII層で礫が出土した以外は遺物の出土は見ていない。

2号トレンチ；表土下層にアカホヤが薄く見られ、これ以下の土層は1号トレンチ同様に良好に残存している。旧地形は綱やかに東へ傾き、V層で土器が出土地している。

3号トレンチ；アカホヤの上位が削平されているものの、これ以下の上層は良好に残存しており、V層で土器・黒曜石・焼砾が出土している。旧地形は北及び東方向へ傾く。

4号トレンチ；アカホヤ直下のIV層上位で集石遺構を検出。南北径約75cmで遺構の中心部はトレンチの西側にあるものと思われる。構成礫は赤変しており、割れた拳大のものが多い。

5号トレンチ；II層が約15cmの厚さで堆積するが無遺物。VI層までを調査しているがいずれも遺物を含まない。旧地形は若干東へ傾く。

6号トレンチ；IV層上位でピット2基が認められ、アカホヤ面では見られなかったものため、縄文早期に相当する可能性がある。同層で石皿（半壊）が出土。旧地形は東へ傾く。

7号トレンチ；全体的に安定した土層の残存状況を示し、II層で土器、アカホヤ以下では焼砾数点が出土する。旧地形は東へ傾斜する。

第4節 小結

各トレンチの状況から、当地の旧地形は小丘陵ないし西から東方向へ向けての傾斜地で、開墾を目的として土砂を移動し現在のような平地に造成したものと思われる。7号トレンチでII層より出土の土器は縄文後晩期に、アカホヤ以下の遺物は縄文早期に相当するが、当地が台地の縁辺部に立地すること、旧地形が傾斜していることなどを考え併せると、遺物の包蔵量はそれほど多くはないものと思われる。しかしながら早期に閑闋では集石遺構が検出されたことから今後の取り扱いには注意を払うべきであろう。いずれにしてもこの地域において縄文早期の文化層が確認されたのは初めてのことであり、この意味においては意義深い調査となった。



第1図 上篠原遺跡位置図 (1/25,000)



第2図 上篠原遺跡概要図 (1/5,000)

第II章 宮園地点の調査

第1節 調査地点の位置と環境

調査地点は串間市大字西方字宮園に所在する。当地はその西側に形成された山稜から裾野状に東方向へ突き出したシラス台地（標高約20m）のほぼ突端部にあたり、現況としては斜面を削って開墾した3段の段々畑となっている。

台地から見下ろす平地には福島川の支流である松尾川が流れ、その東側に形成された台地は福島古墳群が存するほか、現在に至るまで串間の政治・経済の中心部となっている。また、当台地の南側に広く志布志湧付近まで展開する善田原台地では、これまでに錢龜塚古墳・崩先地下式横穴群・唐人町遺跡が調査されるなど、古墳時代を中心とした遺跡が点在する地域となっている。

第2節 調査に至る経緯

平成9年度、送電線（飫肥福島線）鉄塔建設計画に伴って本事業において市内の6地点についての試掘調査を実施したが、今回調査の宮園地点はその計画変更に伴うものである。平成10年5月、事業主より計画変更に伴う地点についての文化財の有無の照会があり、協議・踏査の結果、この内で周知の遺跡である松尾遺跡に隣接する当地を試掘調査することになった。調査は平成10年10月6日から10月20日にかけて実施した。

第3節 調査の内容

調査対象地は北方向への3段畠で、最上段に東西長軸のトレンチ2本（1・8号）、中段に東西長軸のトレンチ3本（4・5・6号）、南北長軸のトレンチ1本（7号）、下段には東西長軸のトレンチ2本（2・3号）を設定して調査を実施した。以下は各トレンチの状況である。

1号トレンチ：厚さ約15cmの表土の下層はII層暗褐色土で、これ以下はIII層黒色塊を含む褐色土、IV層黄褐色土、V層ATと漸移的に堆積しており、アカホヤ前後層以上が消滅している。旧地形はやや北方向へ傾き、遺物は表土中の少量のみである。

2号トレンチ：厚さ約20cmの表土の下層には部分的に約30cmのII層黒色土が見られ、一部での2層間にアカホヤが見られるが自然堆積の状況を示すものか疑問視される。旧地形は北方向へ急激に落ち込み、II層から上器小片が出土するが時期等は特定できない。

3号トレンチ：厚い表土の下層はII層御池ボラを含む黒色土が約30cmの厚さで堆積している。これ以下はIII層暗褐色土、IV層黒色塊を含む褐色土上で、II層が若干量の遺物を含む。II層地形はほとんど平坦。

4号トレンチ：表土の下層はII層粘性腐食土で、以下はIII層褐色土からIV層ATへと移っていき、遺物は見られない。

5号トレンチ：表土の下層には30cmほどの厚さのII層造成土が見られ、これ以下はIII層褐色土、IV層ATまでを確認している。表土及びII層に各時期の遺物が混入する。

6号トレンチ：表土の下層には厚いII層黒色土が見られ、客土されたものと思われる。これ以下はIII層褐色土となり、遺物は見られない。

7号トレンチ：表土の下層に数回にわたる搅乱土が見られ、これ以下は褐色土となり旧地形は北方向へ傾く。各層で各時代の遺物が混在する。

8号トレンチ：表土下層には約25cmのII層造成土があり、これ以下はIII層褐色土、IV層ATとなる。アカホヤ以下までが削平された後、客土されたものと思われ、遺物は認められない。

第4節 小結

各トレンチの状況から、当地では開墾に伴う削平・客土が激しく行われたようである。3号トレンチに見られた御池ボラを含む黒色土は自然堆積のようであり遺物を含むが、他のトレンチの状況から見てこの層の残存範囲は極小面積に限られるものと思われる。遺物では全体的に上器が多いが、各時代の遺物が混在するケースが多く、隣接する松尾遺跡等から造成等人为的な理由によって移動してきた可能性が高い。



第3図 宮園地点位置図 (1/25,000)



第4図 宮園地点概要図 (1/5,000)

第III章 桜木地点の調査

第1節 調査地点の位置と環境

調査地点は串間市大字西方字桜木に位置する。当地は福島川の右岸に形成されたシラス台地（標高約15m）のほぼ南端部に当たり、当台地は歴史的に串間の政治・経済の中心的舞台となってきた地域である。調査地点周辺は近年の宅地化が進み、地下げが多く行われているが、中世、この北に位置する柳間城の攻防戦に伴いその舞台ともなった場所であり、原地形を保っていると思われる当地は留意すべき地点となっていた。また、当地の東側には同台地を削って現JR日南線が走っているが、この線路を敷設する際に多くの土器類が出土したとの地元民の情報も受けしており、線路沿いに200mほど北に位置する福島古墳5号墳（前方後円墳？）との関連性も含めて注意すべき地理的環境にある。

第2節 調査に至る経緯

調査地点を含む地域では前述のとおり宅地化が進行している。調査地点は800m²ほどの畠地であるが、近い将来、住宅等が建築されることはあるものと思われる。第1節に記したような歴史的環境にある当地について、今後協議資料ともすべく試掘調査を施すこととした。試掘調査は平成11年2月2日から2月3日にかけて実施した。

第3節 調査の内容

調査地点は南北に長い形状の畠地で、ここに放射状に8本のトレンチを設定して調査を実施した。各トレンチの状況は以下のとおりである。

1号トレンチ：対象地の最南端に東西を長軸に設定した。厚さ約20cmの表上の下層はII層造成上、III層暗褐色土を東から西方向へ傾斜状に削って堆積しており、人為的なものと思われるが時期等は特定できない。III層以下はIV層A T上位層となる。

2号トレンチ：対象地の南西部に東西を長軸に設定した。表上の下層はII層暗褐色土、III層A T上位層となるが、トレンチの東端と西端でそれぞれIII層下位まで堀り込む土坑を検出する。両土坑は、上位を表土で切られており、出土遺物の陶磁器の状況等を考え併せてると中世のものと思われる。また、西端の土坑からは牛馬類の骨も出土している。旧地形はやや西方向へ傾く。

3号トレンチ：対象地の南東部に東西を長軸に設定した。表土の下層はII層黒色造成土、III層暗褐色土、IV層粘性白灰色土層、V層A T上位層となり、ほぼ平坦な旧地形を呈している。トレンチの北西部でピットを検出するが詳細は不明である。

4号トレンチ：対象地の中央部西側に東西を長軸に設定した。表土の下層にはII層アカホヤ粒を含む黒色土が薄く入り、これ以下はIII層黒色塊を含む暗褐色土となる。表土より堀り込まれた大きな土坑を検出するが、遺物から近世のものと思われる。旧地形はほぼ平坦である。

5号トレンチ：対象地の中央部東側に東西を長軸に設定した。表土の下層はII層黒色造成土、III層暗褐色土、IV層A T上位層となり、平坦な旧地形を呈する。遺物は見られない。

6号トレンチ：対象地の北西部に東西を長軸に設定した。表土の下層はII層アカホヤ粒を含む黒色土、III層暗褐色土となり、2基の小規模土坑を検出するが、これらはIII層中位までの堀り込みで、その上位をII層に切られるという状況での検出である。西側の1基は近代土坑と思われるが、東側の1基については不明である。旧地形はほぼ平坦。なお、表土中より錢貨（洪武通宝）が出土している。

7号トレンチ：対象地の北東部に東西を長軸に設定した。表土の下層はII層黒色造成土、III層黒色塊を含む暗褐色土、IV層褐色土までを確認しており、III層下位で繩文土器小片が出土している。旧地形はやや西方向へ傾く。

8号トレンチ：対象地の最北端に南北を長軸に設定した。表土の下層はII層アカホヤ粒を含む黒色土、III層褐色土、IV層A T上位層となり、II層下位より大規模な土坑を検出するが近世～近代にかけてのものと思われる。旧地形はやや南方向へ傾く。

第4節 小結

調査地点の旧地形は、トレンチごとに若干の傾きがあるが全体的にはほぼ平坦なようである。今回の調査では土坑敷基が確認されたが、平坦な当地は各時期において利活用されてきたものと思われる。各トレンチに見られた黒色塊を含む暗褐色上ないし褐色土は、串間地方の他の土層の状況から繩文時代早期に相当するものであり、これより上部に存するはずのアカホヤ等自然堆積層は消しておらず、期待された古墳時代・中世の包含層は認められなかつた。しかしながら、6号トレンチより出土の銭貨、各トレンチでの陶器・磁器類は十分な検討を要するものと思われ、当地の取り扱いについては今後も留意すべきであろう。



第5図 桜木地点位置図 (1/25,000)



第6図 桜木地点概要図 (1/5,000)

第IV章 金谷遺跡の調査

第1節 遺跡の位置と環境

金谷遺跡は串間市大字南方字金谷に所在する。当地は福島平野を南北に縦貫する福島川の河口左岸に形成された砂丘地帯（標高約10m）で、遺跡の東側には金谷城跡が位置する。

金谷城は近世・豊臣秀吉によって秋月（福岡県甘木市）より高鍋・櫛間に転封となった秋月種長の父秋月種実の居城した城といわれ、また、慶長4年から慶長9年まで櫛間城を居城とした初代種長はこの間に金谷城下の城下町建設に着手したとの記録がある。

金谷遺跡は平成2年度に実施した市内遺跡詳細分布調査により中近世の遺物散布が認められたため、周知の遺跡として取り扱っている。

第2節 調査に至る経緯

調査地点は金谷遺跡の一角に位置する空地で、宅地化計画があるため確認調査を実施することとした。確認調査は平成11年2月4日から2月5日にかけて実施した。

第3節 調査の内容

調査地点は南西・北東方角の長方形の上地で面積は約700m²。ここに計6本のトレンチを設定して調査を実施した。各トレンチの状況は以下のとおりである。

1号トレンチ；対象地の南西端西寄りに設定。厚さ約20cmの表土の下層はII層黒色土と浜砂の混合層、III層褐色砂層となり、II層までが上鍤、陶器類を含む。

2号トレンチ；対象地の中央部西寄りに設定。表土の下層はII層黒色土と浜砂の混合層、III層褐色砂層、IV層白砂層となり、表土のみに遺物が含まれる。

3号トレンチ；対象地の北東部西寄りに設定。土層の状況は2号トレンチとほぼ同様で、遺物は表土中の若干量のみ。

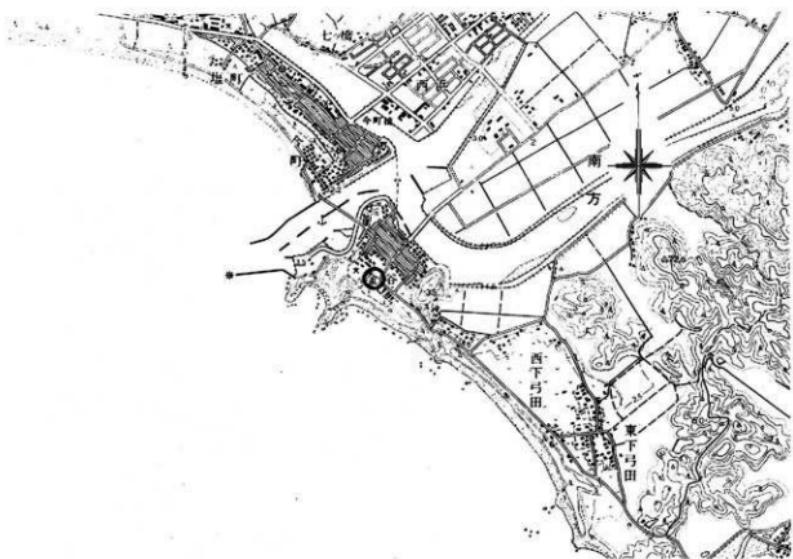
4号トレンチ；対象地の南西端東寄りに設定。表土の下層はII層黒色土と浜砂の混合層、III層白砂層で、II層までに遺物が含まれる。

5号トレンチ；対象地の中央部東寄りに設定。土層の状況は4号トレンチと同様、II層までに遺物が含まれる。

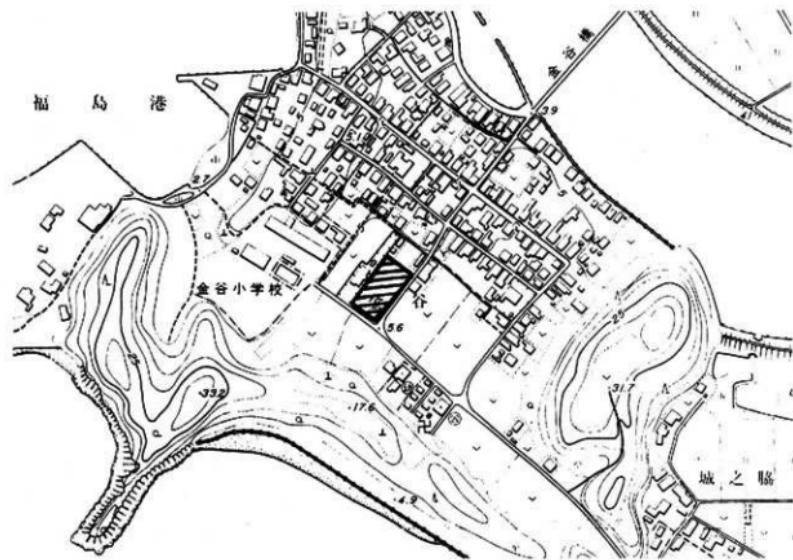
6号トレンチ；対象地の北東部東寄りに設定。土層の状況は4・5号トレンチと同様、II層までに遺物が含まれる。

第4節 小結

砂丘地帯であるため砂質層が厚く、これ以下の地層確認には至らなかった。表土及びその直下層は少量ではあるが遺物を含んでおり、陶器・磁器類は近世のものと思われる。期待された金谷城城下町に関する遺構は検出されなかつたが、遺物が包蔵されることを確認されたため、遺跡全体の今後の取り扱いについて留意したい。



第7図 金谷遺跡位置図 (1/25,000)



第8図 金谷遺跡概要図 (1/5,000)

図版1 上條原遺跡トレンチ状況写真



遺跡近景



4号トレンチ



1号トレンチ



5号トレンチ



2号トレンチ



6号トレンチ



3号トレンチ



7号トレンチ

図版2 宮園地点トレンチ状況写真



調査地点遠景



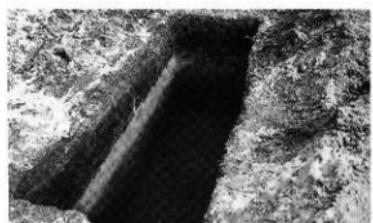
4号トレンチ



1号トレンチ



5号トレンチ



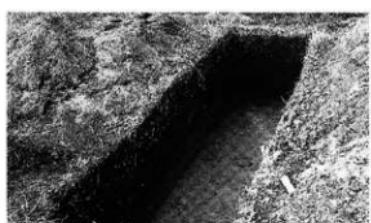
2号トレンチ



6号トレンチ



3号トレンチ



7号トレンチ

図版3 桜木地点トレンチ状況写真



遺跡遠景



4号トレンチ



1号トレンチ



5号トレンチ



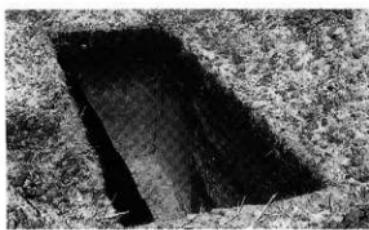
2号トレンチ



6号トレンチ



3号トレンチ



7号トレンチ

図版4 金谷遺跡トレンチ状況写真



遺跡近景



4号トレンチ



1号トレンチ



5号トレンチ



2号トレンチ



6号トレンチ



3号トレンチ

報告書抄録

フリガナ	シナイイセキ
書名	市内遺跡発掘調査報告書
シリーズ名	串間市文化財調査報告書
シリーズ番号	第19集
編集者名	宮田浩二
発行機関	宮崎県串間市教育委員会
所在地	宮崎県串間市大字西方6524-58
発行年月日	平成11年3月31日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ウエレノハル 上篠原遺跡	クシマ ニンショウ 串間市大字本城 ウエレノハル 字上篠原	31° 26° 00° 付近	131° 16° 20° 付近	19980901 19980903	21m ²	鉄塔建設計画
種別						
散布地	縄文早期・後期	集石遺構		円筒土器・沈線文土器		
フリガナ 所収遺跡名						
ミヤヅメ 宮園地点	クシマ ニシカタ 串間市大字西方 ミヤヅメ 字宮園	31° 27° 50° 付近	131° 13° 40° 付近	19981006 19981020	24m ²	鉄塔建設計画
種別						
散布地	古墳時代	なし		土師器・縄文土器		
フリガナ 所収遺跡名						
サクラザ 桜木地点	クシマ ニシカタ 串間市大字西方 サクラザ 字桜木	31° 27° 40° 付近	131° 14° 10° 付近	19990202 19990203	24m ²	宅地化計画
種別						
散布地	中近世	土坑		陶器・磁器・錢貨		

シリガナ 所収遺跡名	シリガナ 所在地	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
金谷遺跡	申間市大字南方 字金谷	31° 26' 30" 付近	131° 12' 50" 付近	19990204 19990205	18m ²	宅地化計画
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
散布地	近世	なし	陶器・磁器			

串間市文化財調査報告書第19集

市内遺跡発掘調査報告書

1999年3月

発行 串間市教育委員会
印刷 (有)串間新生社印刷